

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500188		
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会		
事業所名	認知症対応型グループホーム シルバーケア豊壽園		
所在地	三重県津市高茶屋小森町字瓦ヶ野4159番地		
自己評価作成日	平成21年9月10日	評価結果市町村提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500188&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 10 月 1 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の能力・状態に応じた自立支援、希望・嗜好に応じた日々の過ごし方ができるように心掛けています。法人内の特養との連携により、重度化した際でも多岐に渡った対応が可能である。認知症介護の経験・適性を十分考慮した職員配置がされている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し奥まった閑静な新しい住宅街の外れに、特養、老健、ケアハウス、通所リハ等が連立する、法人本部といわれる「地域総合ケアセンター」があり、その中に保育所に隣接して事業所がある。食堂兼居間の窓からはお隣の保育園の遊ぶ姿や声が聞こえ、運動会その他交流の機会もたくさんある。法人内の各種事業所との連携もあり、経験豊かな職員の配置も可能で、利用者の表情もおだやかで、朗らかな会話が弾んでいる。趣味も多彩で色紙工作の完成した額が玄関口に所狭しと飾っており、大正琴を持出し爪弾く方もおられた。ゆったりとした時間が流れているのを感じた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念①地域社会に貢献する、②夢と希望を創造する、③人々の生活と社会に前向きに取り組む、の下、事業所は「津に根付いて、明るく楽しく仲良く」を理念として掲げている。理念を揭示し、会議等で話し合って実践している。	法人設立以来地域とともに歩んできて30年経ち、グループホームとしても10年になる。設立当初は認知症の理解を得ることも難しかったが管理者はじめ皆で理念の実践に努め、地域でも認められてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域総合ケアセンターの一角に立地しており、保育園児や他事業所の利用者との交流がある。	地域自治会に加入はしているが、催物は少なく、隣接している保育園児やケアセンター内の他事業所利用者との交流が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターなど、法人全体を通じての支援を中心として行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開き、近況報告等の他、毎回テーマを設けて話し合いをしている。	ほぼ2ヶ月毎に開催しており、メンバーも快く出席してもらえ、テーマも多く、非常に熱心で積極的な意見のやり取りがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体を通じての連携が主である。法人広報誌を送付して近況報告等を行っている。事業所単独でも相談を要する事があれば随時連絡を取り合っている。	法人の地域総合ケアセンターが隣接しており、本部企画室が市役所の窓口になっている。従って窓口経由での連携が多いが、事業所に対する市の対応は良く、情報も入る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人指定のマニュアルを基に、身体拘束についての理解を深め、拘束の防止に努めている。	法人全体で身体拘束排除に取り組んでおり、事業所としても職員全員で勉強している。玄関を含め施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する研修への参加等を通じて、学ぶ機会を持つように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修への参加等を通じて、学ぶ機会を持つように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人の定める重要事項説明書に基づいて、十分な説明を行っている。利用に際しては重要事項に対する同意書も頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度のホームパーティー時にご家族との面談を行い、ご意見ご要望等を聞かせて頂く機会としている。それ以外にも随時話し合い等の機会を設けている。	ホームパーティーと称し昼食会やおやつ作り、ボランティアの音楽会などを開催し、楽しみながら来てもらう家族会を3ヶ月に1回開催している。ほとんどの家族の出席があり、このとき近況報告含め意見交換をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議に管理者が出席し、共に事業所運営についての話し合いを行っている。また、管理者と職員個々との面談を年一回行っている。	日頃から管理者と職員は会話を多く持つようにしており、月1回の会議でも職員の提案・意見(発言)は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	住宅手当や子供のいる家庭へのミルク・オムツ手当等、各種手当での充実、役職への積極的な登用、職員住宅の完備などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事管理部の計画を元に、各職員の希望も取り入れて研修参加等を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に加盟している。その他の研修にも随時参加の機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査にて生活上の問題点、生活歴など詳しく聞き取りしている。入居後も随時本人と話し合う機会を設け、ニーズの把握等に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討いただいている段階及び入居契約時に悩み事・要望等の相談を行い、入居後も随時ご家族に近況を報告して不安の解消等に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討されている段階で、本人にとって今の時点での入居がベストな選択かどうか、担当ケアマネの意見なども交えて一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の要望等を随時聞き取りして、より良い暮らしが出来る様に一緒に考えている。また、自分で出来る事はしてもらえるように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の相談をお受けする一方で、こちらからも必要な時には随時相談をさせていただき、より良い暮らしを送って頂く為に協力し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等の制限を設けず、家族や友人が気軽に遊びに来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また、隣接する他事業所に知人・友人がいる場合は行き来しあっている。	昔の同じ職場だった人の訪問や同じ宗教だった方の来訪もある。事業所内の歓談の場所も、大人数の場所もあれば、2～3人の所も作ってある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事・調理等の作業や行事・レクリエーションはもとより、日頃のちょっとした会話を通じて利用者同士が関わりを持てるように努めている。不仲な利用者同士に対しては、関係をよくしてもらえるようなさりげないフォローを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居された場合でも、退院後の進路についての相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし振りをよく観察して個々のニーズ把握に努め、会議やケアプラン見直し時によく検討している。	職員みんなで利用者各人の生活歴をまとめており、介護のためのアセスメントだけでなく、食べたい・見たい・言いたい等の、生活そのもののアセスメントに力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前調査にて生活歴等に関する聞き取りを行っているが、それだけでは十分な情報は得られない為入居後も時間を掛けて本人や家族から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状態を観察し、特記事項があれば個人記録に記録して情報を共有して、状態等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは基本的には3ヶ月に一度の見直しとし、状態が変わればその都度見直し・変更していく。家族への面談を定期的に行い、意見・要望を聞かせてもらっている。	3ヶ月毎のホームパーティーや面会時、家族と十分な話合いの時間を持ち、意見・要望も取り入れ3ヶ月に1回見直しを行っている。状態変化時は随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項は個別記録に記入し、1ヶ月単位で各担当ごとに経過記録にまとめて情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たな要望が出た時は、前例等に囚われずにその都度検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店への買出し等に入居者と一緒に 行っている。また、隣接する保育園や老人 福祉施設を地域資源とみなして交流に努め ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な健康管理や緊急時に対応できる 提携医を法人として定める一方で、それ以 外の医療機関も入居者や家族の要望に応 じて積極的に活用している。	普段の健康管理や緊急時の対応について、 契約時に本人・家族と十分に話し合い、全員事 業所の協力医となっている。また歯、目、耳 等については本人・家族の希望どうりのかか りつけ医である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	隣接する介護老人福祉施設の看護師と連 携を取り、相談等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院先の病院に週一回以上の面会に赴き、 本人の状態観察及び病院関係者との情報 収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	入居時に「重度化に係る指針」を提示・説明 して承諾を得ている。また、実際に重度化の 兆しが見られる際には、改めて家族との相 談等を行っている。	入居時に重度化に向けた取組みの説明をし ており、事業所でできることを十分に話してい る。また特養への入居申込みも同時にしても らことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	法人全体としての研修や、併設されている 介護老人福祉施設の会議での研修を受け ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災に備えての避難訓練を月一回 行っている。	毎月1回、火災の避難・消火訓練や地震の避 難訓練をしているし、夜間想定訓練も行っ ている。また年2回は消防署の立会いの下に 指導を受け行っている。	管理者・職員ともに災害に対する意識 は高く、日頃から訓練をしているが、 万一の災害時には地域との連携も必 要となるので、地域住民を巻き込んだ 訓練も検討されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の定める認知症の対応に係るマニュアルに基づき、人格の尊重等を心掛けた対応に努めている。	法人全体としても取り組んでいるが、事業所として特に「言葉かけがきつくないこと」と「知りえた情報を漏らさないこと」に重点を置き、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人が自分の意志や希望に基づいた決定が出来る様な対応をするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限の日課以外は入居者個々の意思が反映されるように、希望を聞きながら日々過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	依頼品購入にて希望する衣類や小物などを購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週金曜の夕食作りにて、調理や下ごしらえなどを一緒に行っている。それ以外の日も下膳やテーブル拭きなど、個々の能力に応じてして頂いている。漬物の管理も一緒に行っている。	法人の厨房からの配食であるが、木曜日の昼食の一品や金曜日の夕食はみんなの希望を取り入れたメニューのお料理作りをしている。またおやつづくりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の望む主食の形態や、嫌いな食材・アレルギーのある食材の代替などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に歯ブラシとコップを常備して、毎食後歯磨きの促しをしている。自力で出来ない方は能力に応じて介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の見られる方、自力でトイレに行くのが困難な方は個々の状態に応じた声掛け・誘導・介助を行っている。	管理者・職員ともに自立支援に取り組んでおり、ポータブル利用者はなく、誘導の必要な方もおられるが、みなさん自立でトイレに行かれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の使用のみに頼らず、水分摂取や運動の促しを行っている。個別にヨーグルトを提供している方もいる。排便チェック表は毎日記入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日と時間は決めさせてもらっているが、入浴順や湯船に浸かる時間などを個々の希望に応じて対応出来る様に努めている。	月火木土と週4日が基本となっている。時間帯は昼からで夜の希望者はいない。また入浴拒否者もおらず、入浴順等のトラブルもない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後や入浴後などをはじめ、個々の要望に応じて適度に昼寝や休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書を職員が供覧できる場所に保管して、いつでも薬について学べるようにしている。自力での服薬が困難な方は服薬確認・介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動や創作、歌など各々が好きな娯楽を提供出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて屋外への散歩等を行っている。全員での外出イベントだけでなく、一人一人が希望する場所に出かけられるように個別外出も行っている。	日常的にはお天気の具合を見て事業所周辺の散歩をしたりしているし、普段行けない所として、季節毎の花見や足湯等もある。希望があればショッピングやコーヒーを飲みに行く。	比較のお元気な方が多いので、日常的に買物とかちょっとした外出の機会を多くされることを期待する。また手作り作品展も事業所外のお出かけを兼ねて行かれるような場所での開催はどうだろうか。



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金は職員管理とし、個々の能力に応じて外出先での支払いをしてもらうなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話を使って頂いている。携帯電話をお持ちの方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、入居者と協力して清掃を行っている。季節に応じた飾りつけをして、季節感を出すよう心掛けている。	食堂兼居間の高い天井には天窓があり、やさしい明るさになっているし、窓からは隣の保育園児の動きがすぐ目の前で、声も聞こえる近さである。玄関・廊下の壁には利用者さんの手作りの秀作が掛けられ、訪問者を楽しませしてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主に居室が独りになれる空間である。気の合った入居者同士が廊下や食堂で談話する場面が見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた持ち物を持ってきて頂いている。家族の写真などを飾っている方もいる。	大きな2段の押入れがあるので、きれいに整理されスッキリした部屋作りをされたり、部屋一杯に使い慣れた古いタイプの筆筒や仏壇、ご主人の肖像画を置かれたり、季節の花を飾られたりと、それぞれ自分流の部屋作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーに配慮した作りになっており、安全な環境の中でも出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		